

アジア鉱物資源図 (Mineral Resources Map of Asia)・同説明書の発行について

鉱物資源研究グループ 神谷 雅晴、大野 哲二、奥村 公男
寺岡 易司、渡辺 寧 (現・秋田大学)



アジア鉱物資源図 (Mineral Resources Map of Asia) は東アジア鉱物資源図 (1:300 万、GSJ,2007) および中央アジア鉱物資源図 (1:300 万、GSJ,2012) に、南アジア地域を加えて総括した 500 万分の 1 資源図 (東南アジア地域を除く) として 2014 年 12 月に発行されました。

この鉱物資源図は 3 年前に発行されたアジア地質図 (寺岡・奥村、1:500 万、GSJ,2011) 上に、約 8,000 におよぶ金属および非金属鉱床をプロットしています。これまで、このようなアジア地域を総括した詳細な鉱物資源図は発行されていませんでした。

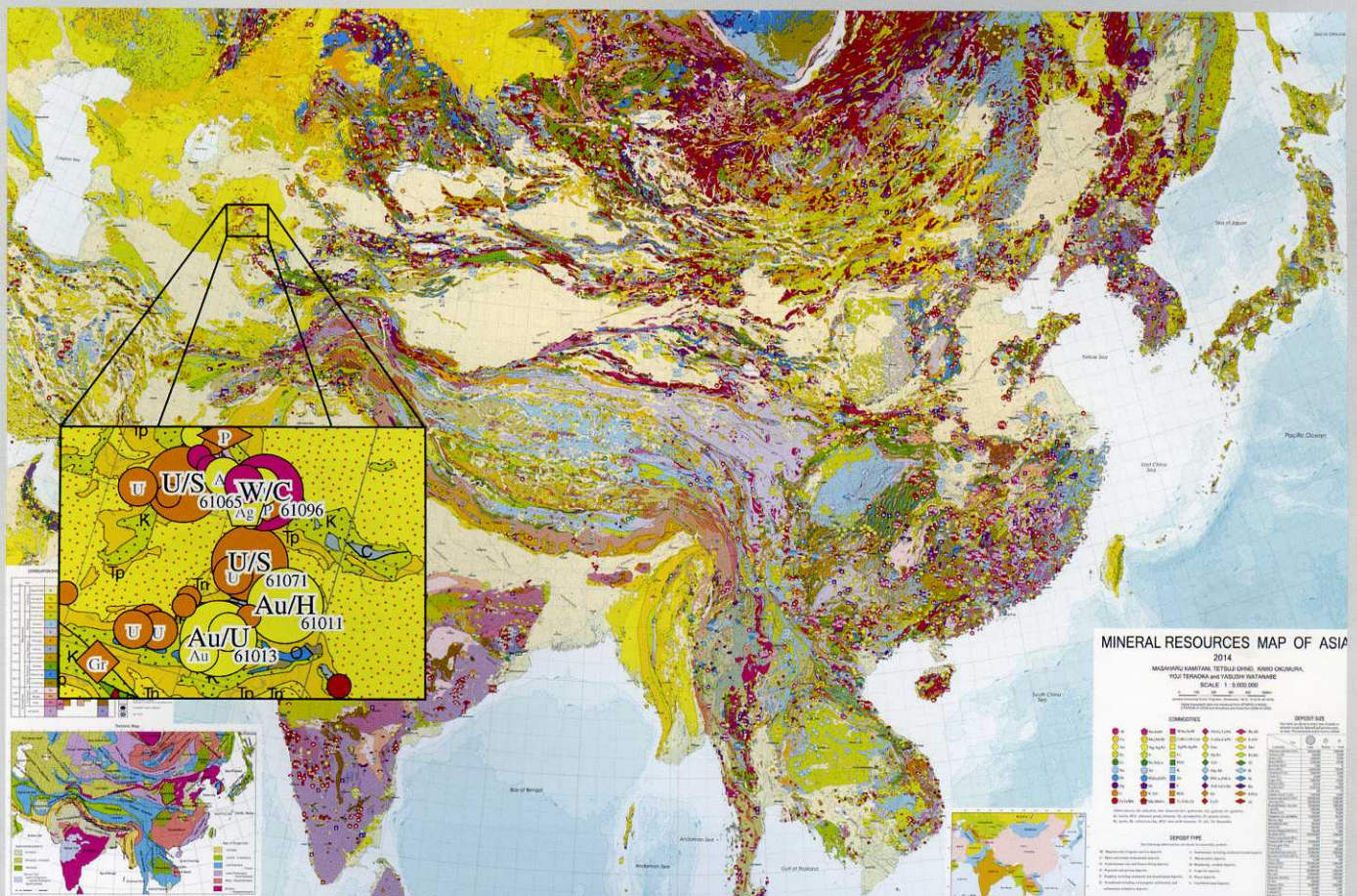
近年、世界の鉱物資源の需要は、各国における生活水準の向上に伴って増加しており、その対象はベースメタルのみならず、レアメタル・レアアースや貴金属にまで及んでいます。需要の高まりとともに、資源の探査・開発は世界中で喫緊の課題となっています。アジア地域においてもその傾向は著しく、その結果いろいろな地域において次々と新鉱床が見いだされ、資源賦存ポテンシャルは増加しています。それは例えば新疆ウイグル地域、チベット周辺地域、モンゴルやインドシナ地域およびウズベキスタン、カザフスタンなどの銅、

鉛・亜鉛、金・銀鉱床などであり、なかでも金、銅の資源賦存ポテンシャルの増加は極めて著しいものがあります。

この鉱物資源図はベースメタル、レアメタル、貴金属、主な工業原料鉱物資源 (黒鉛、石膏、耐火粘土類等) および貴石類を網羅しており、それらを 50 種に分類して掲載しています。50 種の資源は図中において、10 種の色彩と 5 種の図形とによって識別できます。さらに鉱床の生成タイプ、産出状況形態および資源量の規模 (大、中、小) が、統一の基準に基づいて表示されています。

また、この鉱物資源図にはアジアの地質構造図が添付されています。鉱物資源 (鉱床) の生成にはそれぞれの地域の地質や地質構造が密接に関連していることから、それらの関連性の理解を深めることが可能となっています。

なお、すべての鉱床データは産総研地質調査情報センターのウェブサイト (<https://www.gsj.jp/Map/EN/asia-area-geoscience.html>) に掲載される予定です。この資源図は今後も拡大し続ける資源需要に応えるため、資源探査に必要な資源ポテンシャル地域を広域的に把握し、抽出するための基礎資料として重要となると考えます。



500 万分の 1 アジア鉱物資源図 (GSJ, 2014 年 12 月発行)。図中の拡大部分は世界最大の金の埋蔵量を誇る Muruntau 鉱山 (61011, カザフスタン共和国) とその周辺部。拡大部分はほぼ実寸大。資源図は A0、2 枚組にして発行されました。